

令和5年度 特別講演 「国際緊急援助隊チームの活動」

講師：災害医療センター 診療看護師 高以良仁 先生

特別講演「国際緊急援助隊医療チームの活動」を聴講して

3年生 山下 素子

特別講演を聴講して、海外の国で看護師として活動することの素晴らしさを一番に感じました。日本で得た知識や技術、臨床での看護を活用し、異なる文化や言語の社会で生活されている方に対しても、対象の状態に合わせて必要な看護を実践することが重要であると学びました。また、講師の話をしている中で、多くの学びを得ると同時に多くの不安も感じました。日本のように衛生環境も整っておらず、医療体制にも違いがあり、思うように医療を受けられない人もいます。そのような中で、自分にできることを見つけて看護をしたり、看護以外にもテントをはったり、通訳者を通じたコミュニケーションなど様々な関わりを行いながら実践していく必要があると感じました。講師がおっしゃった通り、まずは、自分が一人前の看護師になれるように努めること、自分にできる、自分だけが深められる分野を見つけ、どこでも一貫した看護が提供できるように、これから1日1日を過ごしていきたいと思いました。私は将来災害が多い日本で、被災者の思いに寄り添った看護やその後の生活環境の整備や長期的なサポートができる看護師を目指しています。そして、いずれは、そこで得た経験をもとに、国際的な看護活動の場面で活かしていきたいと考えています。本日の講義を通して視野を広く持ち、謙虚な気持ちを忘れず、常に向上心を持ち続ける必要があると感じました。まずは、看護学生として基本を忘れず、コツコツと努力をし続けること、自分の中で目標を常に持ち、それをしっかりと達成することを大切にしていきたいです。また、どのような場所でも自分の目指す看護観が反映できるように、今後の自分の課題を明確にしつつ、知識や技術を習得していきたいと感じました。

